



しまね学習支援プログラム第3弾「地域魅力化プログラム」を活用したファシリテーター養成講座修了者のみなさんのその後の様子をお伝えします。



## 「今の久野地区を見つめなおす」

～第2次地区計画策定に向けて～

久野地区振興会

集落支援員

長妻 美保子 さん

久野地区で集落支援員として勤務して5年目。久野交流センターを拠点に久野地区振興会に関わる業務を行っておられます。第2次久野地区計画を作成するにあたり、「地域魅力化プログラム」を活用しながら取り組んでいきました。

## ●当事者意識のギアチェンジに向けて

### 一どのような現状や課題がありましたかー

長妻 第2次地区計画を策定するにあたり、まずはしっかりと現状把握をしたいと思いました。地区計画策定委員の方の声はもちろん、世代や性別を超え、地区の方々の感じていらっしゃることを、さまざまな視点から出していただくことが必要だと考えていました。



### 一まず、取組の第一歩としてどうされましたかー

長妻 今まで 市内や各地で開催されている参加型学習を用いたワークショップや東部社会教育研修センター主催の「ファシリテーター養成講座」などの研修会に参加してきました。そこで出会った方々の話を聞くことで、私自身の考えやアイデアが広がっていくことを実感し「話し合うことって楽しい！」と心から思えたことが大きかったです。地区の現状を把握する際にも、楽しみながら話を引き出すことで、自分の考えを言う、参加者の話を聞く、そのような場を積み重ねていくことで、地区の方々が、今以上に課題解決に向け、より当事者意識を高めていってくれるであろうと考えました。

### 一地域でのワークショップに向けてどんな準備をしていきましたかー

長妻 4回ワークショップを行いました。毎回、何を導き出したいのかという目標を立てました。話し合っていたきたいテーマがたくさんあったので、1日約2時間で2テーマを話し合うことにしました。参加した方々が継続して意見交換を楽しめるように、模造紙のワークシートを使ったラベルワーク、ブレインストーミング、フリップトークなどいろいろな参加型学習の手法に挑戦しました。意見交流では、いいなと思った意見にタックシールを貼ることで互いの良さを認め合う場も設けました。

その他、スライドを活用して進行状況の見える化にも努めました。今日は何をするのか、これからどんなことをするのかが分かると参加者の皆さんも安心して参加できますよね。

それぞれのワークショップの準備に「地域魅力化プログラム」を開いて参考にしました。「次の話し合いはこのプログラムに流れに近いか、ちょっとアレンジして…」など、具体的なイメージを持つことができ役立ちました。

## ● “もっと” “さらに” を次へ

### 一ファシリテートをやってみられていかがでしたかー

長妻 参加者から「小グループで気を遣わずに話すことができた」「自分の思いが出せ、他の人の思いを把握する機会になった」「雑談も多かったがその中ならヒントを得ることもできた」「何が問題だったのかを振り返ることができた」などという声が聞けたことが成果だと思います。一方、「もっと具体的な話をじっくりしたかった」「地区計画の振り返りはできたが、さらに問題点の洗い出しをしていきたい」といった感想もありました。



2時間で2テーマについて話し合っていたいたので時間が短かったと思いますが、“もっと”“さらに”という言葉は、次の動きへとつなげていくことができると考えています。いただいたたくさんの声を来年度の地区計画策定に向け、さらなる原動力と変えていけるよう、これからも私自身も楽しみながら関わっていきたいと思っています。